

2019 年度第 3 学期終業式式辞

おはようございます。3月2日の臨時休校開始から20日ほど経ちました。休校期間中は時間を大切にしましたか。学校に来られず、友人に会えず、部活動もできず、ストレスもたまっていることでしょうか。我慢の時です。日本国民、全世界の人たちに与えられた試練です。必ず感染症に勝利する日、事態が収束する日を迎えると信じます。休校の間、私は毎日、静かな校舎を歩きながら、生徒の元気な声が響いていたり、笑顔にあふれていたりするのが学校だという、ごくごく当たり前のことを寂しく感じていました。災難や予期せぬことに遭遇するたびに痛感することは、当たり前の日常のありがたさです。報道の通り、心配で不安定な状況は続いています。残念ながら、明日からの春休みも登校をすぐには許可できる状況にありません。社会動向を見定めつつ、4月、新年度からは少しずつ、教育活動を本来の形に戻していきたいと考えています。またそうできることを願っています。今後のことは、先生方からの指示に従ってください。皆さんも手洗いや咳エチケットなど、感染症対策を引き続き徹底し、自分が感染しない、そして身近なところから感染者を出さないようお願い致します。

18世紀のフランスの思想家、アランの『幸福論』に「雨の日に笑え」という言葉があります。気持ちが落ち込みがちな時こそ、人にやさしく、笑顔を忘れないようにしたいものです。

今日は第3学期の終業式。大教室で皆さんの顔を見ながら話したいところでしたが、社会状況を考慮して、放送で少しだけ、令和元年度、皆さんがそれぞれの学年を終了するに際してのメッセージを終業式の式辞として申し上げます。

まずは、3年生の皆さん、穎明館中学校の卒業おめでとうございます。今年度、皆さんの学年からアドバンストクラス・スタンダードクラスの編成という、穎明館としても新たなチャレンジを始めました。先日の成績会議で、3年生の皆さんが、よく頑張っていることが報告されて、私は大変、嬉しく思いました。高校でも目標を高くもって努力を続けることを期待しています。卒業証書は担任の先生から受け取ってください。

さて、穎明館生の皆さん、昨年、4月に私はこう伝えました。「穎明館は、リーダーを育成することを教育目標とした進学校です。将来、何らかの形で、でき

れば皆さんの希望の場でリーダーとして社会に貢献してほしい。学校は、その社会での訓練をする場でもあります。これからの新しい学年、学級、あるいは委員会やクラブなどで、大いにリーダーシップを発揮できるように積極的に動いてみてください。失敗を恐れず、今年度はお互いにチャレンジする年としましょう。私立学校で一番大事にしているのは、建学の精神です。穎明館では創立者、堀越克明先生の創立の思いです。思えば穎明館も創立以来 30 年以上たち、グローバル体験、学校行事、クラブ活動をはじめ、多種多様な教育活動が行われる豊かな学校になりました。本当に学校として成長してきました。ただ、一番肝心なのは、進学校穎明館、皆さん一人ひとりがしっかりと将来の夢・進路目標をもって、学力を身につけて、進路実現を果たすことです。学校目標としても進学実績をしっかりと残すことです。」

穎明館生の皆さん、どうですか。リーダーシップを発揮するように積極的にチャレンジしましたか。そして何よりも進学校の生徒としてしっかりと将来の夢・進路目標をもって、学力を身につける努力をしてきましたか。成果を出しましたか。この後の **LHR** でも先生方から頑張ったことや今後に向けての課題が指摘されることでしょうか。きちんと受けとめて、今後活かしてください。

学校目標としての進学実績については、まだ国公立大学の後期試験の発表がすべては出ていませんが、第 33 期生も先輩の背中を追いかけてベストを尽くしました。東京大学現役 2 名合格・京都大学現役 1 名合格等、よく頑張りました。高校棟教員室や昇降口の合格速報で、慕っていた先輩の名前を見つけた人も多いかと思います。皆さんも頑張って成果を残した先輩方の後に、しっかりと続いてほしいと思います。それが今後の皆さん自身の人生の充実、そして穎明館の発展にもつながります。私が長年、生徒を見ていて思うことの一つに、「生活態度がしっかりしている生徒は受験でも結果を残している」ということがあります。怠惰な理由で遅刻や欠席をしがちな人は、まずは生活態度、生活習慣を見直しましょう。今後の実行を期待しています。

元号が改まった令和元年度は時代の節目でした。春休みは皆さんが進級を迎える年度の節目です。日本、世界が我慢の時ですが、穎明館生は健康で、事故やけがなく、気持ち新たに 4 月、新年度・新学期を迎えることを願っています。

以上、令和元年度穎明館中学高等学校第 3 学期終業式式辞といたします。